

蚕糸試験場で 秘密基地を作ろう！ 地元の食べ物を知ろう！

8/21(土)~24(火)9:00~15:00@新庄市旧蚕糸試験場「原蚕の杜」
(山形県新庄市十日町6000-1)

大人、大学生、小学生ら各世代が入り交じり、ワークショップ形式で秘密基地を作ったり、地元の食材を使って料理をしたりして、環境や地域、食文化に対する理解を深めます。

※会期中は一般公開しています。ぜひ見学にいらしてください。



- ◆主催：新庄市農林課、青山学院大学総合文化政策学部黒石ラボ
- ◆協力：東北芸術工科大学蔵プロジェクト、NPO-AMP
スローフード山形、ネットワーク農縁、産直まゆの郷 他

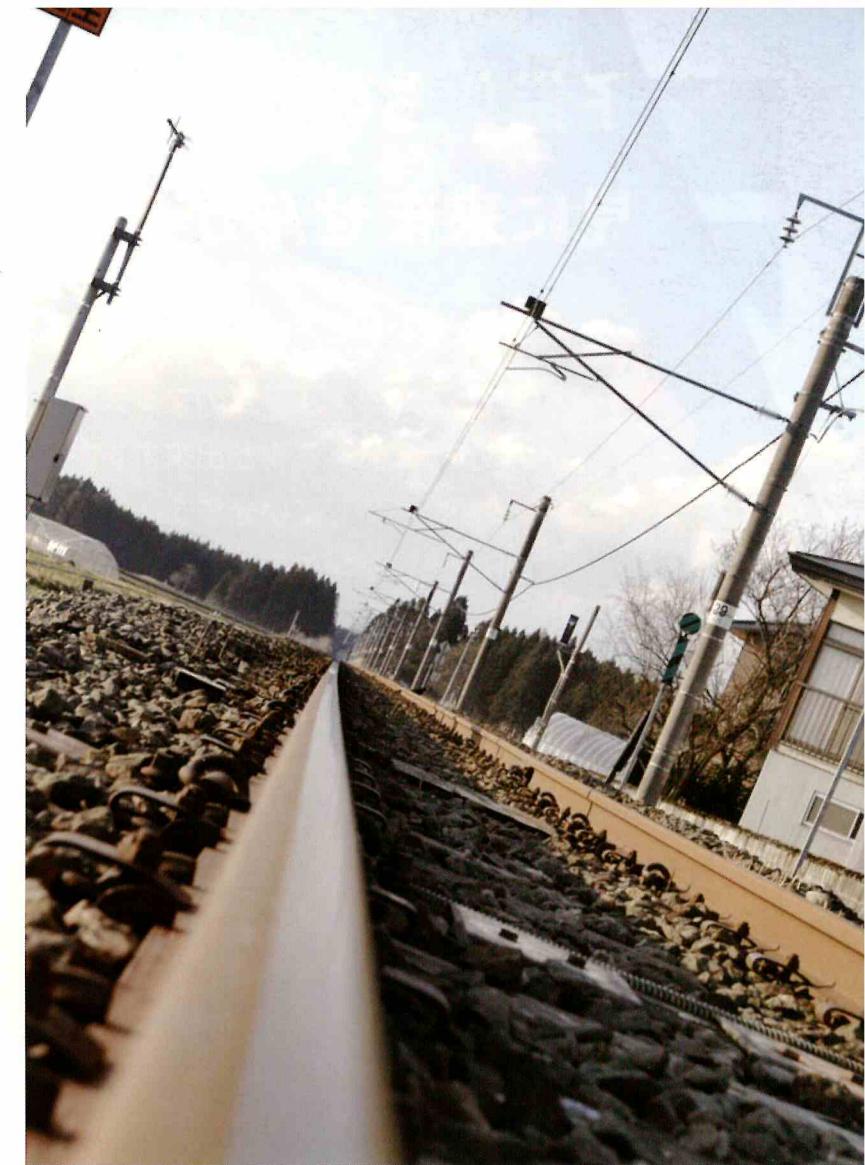
黒石ラボ

2008年に設立された青山学院総合文化政策学部の授業である、ラボアトリエ実習の一つ。現在は黒石教授の下、8名の学生が在籍している。主に山形の新庄を舞台に、それぞれが持ったテーマについて考えながら実地的な活動をしている。

黒石いずみ研究室

住所：東京都渋谷区渋谷4-4-25 黒石研究室
TEL：03-3409-6309
Mail：kuroishi.lab@gmail.com
Blog：<http://kurolabo.exblog.jp/>
ご意見、ご感想はこちらまで。

い
ち
に
・
せ
ん
し



Take Free

vol. 3

子どもたちのとっておきの基地を見に来ませんか？？

子どもたちが旧蚕糸試験場を舞台に秘密基地を作り、パーティのメニューを考え、皆さんをおもてなします。食のマイスターたちの手ほどきを受けて、普段は味わえないような食を実際に作って食べる事が出来ます。何ができるかはお楽しみ。活動の記録は地図や写真、絵を描いてかたちにしていきます。

旧蚕糸試験場の空間の魅力を工芸のマイスターたちが作品に表現して皆さんにお伝えしていきます。

たくさんの方のお越しをお待ちしております！

日時：8月20日 研究会 「文化資源マネジメント論に資する都市農村交流」@雪の里情報館

21日 WS1日目 「とっておきの秘密基地を作ろう！」

22日 WS2日目 「パーティーにお友達を招待しよう！」

23日 WS3日目 「思い出をかたちにしよう！」

24日 WS最終日「原蚕の杜の魅力を次世代に伝える」

主催：青山学院大学総合文化政策学部黒石ラボ、新庄市農林課

協力：ネットワーク農縁、スローフード運動、東北芸術工科大学蔵プロジェクト、

NPO-AMP、産直まゆの郷 他

企画に関するお問い合わせは ☎996-8501 山形県新庄市沖の町10番37号

新庄市 農林課 農業公園室 (0233-22-2111) まで

旧蚕糸試験場

かつての花形産業である、養蚕に関する研究を行う国の施設が新庄に開設されたのは昭和9年。その後、養蚕の斜陽化などについて、研究内容や組織・名称も変遷していくが、その半世紀以上の長きにわたる活動により、この地の農林業にきわめて大きな貢献をなしたという事実は未永く記憶されるべきであろう。

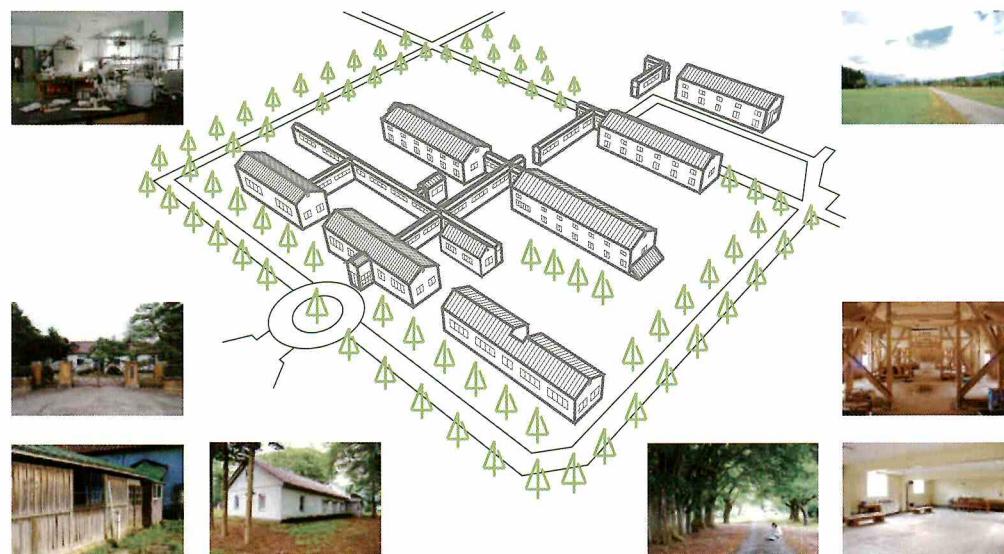
歴史的な使命を終えて、平成12年に施設は閉所されたが、新庄市はその跡地を国から取得。平成14年9月に、新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」（げんさんのもり）として、南側6ヘクタール余りの部分を一部に開放し、新たな地域活動の場とするべく、多くの人が活動している。



かつて蚕が飼育されていた作業場の2階の柱の陰に、当時の繭が幾つか残っていた。これは当時の蚕糸試験場の姿を思い起こす貴重な記憶の「かけら」である。



「原蚕の杜」
全体図



旧蚕糸試験場までのアクセス&周辺図

新庄駅から国道13号線を北上。（約2km）瑞雲院隣接。



言わずと知れた山形新幹線の終着駅。新庄祭りの時には、町中の山車が駅前広場に集結する。

黒石ラボの活動

2009.1	山形県新庄市 初訪問
2009.8	新庄市に現存する郷倉調査 旧蚕糸試験場調査 新庄市内フィールドワーク
2009.10	ニュースレター「いち・に・さんし vol.1」作成
2010.3	ニュースレター「いち・に・さんし vol.2」作成
2010.4	旧蚕糸試験場パンフレット作成
2010.5	旧蚕糸試験場にてイベント「旧蚕糸で掃除」

私たち黒石ラボは、東京とや山形県新庄市を拠点に活動しています。私たち学生は山形とのかかわりをほとんど持っていましたが、新庄の様々な人と出会い語らうなかで、新庄に魅せられ、地域のもつエネルギーを知りました。新庄を知るためにフィールドワークをし、“新庄の魅力を伝えたい”との思いで、情報誌作成などの活動を続けてきました。

その中で、旧蚕糸試験場の活性化に焦点を当て、その第一段階として5月に、掃除イベントを行いました。

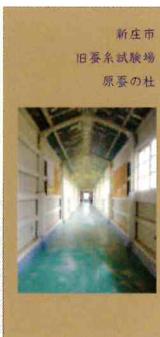
「旧蚕糸で掃除」

旧蚕糸試験場で活動している自分たち自身が場所や建物を良く知りたい、旧蚕糸が人々が交流する拠点となってほしい、そして地元の方々に自分の街にある文化資産を知ってもらいたい、という期待を込めて掃除をしました。掃除をしている私たちは地元の方々にとって気になるものであったようで、敷地内に入ってくる市民の方が何組かいらっしゃいました。「中に入っているのですか？」や「前から綺麗な場所だと思っていたんですが、入るきっかけがなくて。」というような声を聞く事が出来ました。私たちの活動の意義が実際に目で見えるかたちで達成された機会であり、とても嬉しく思いました。

今回のこの活動は、山形新聞にも取り上げて頂きました。今年の8月に控えているワークショップ×ライブの企画があります。新庄の魅力は一言では語れません。しかし肌で感じるのです。旧蚕糸試験場を通じて新庄の魅力をたくさんの人々に知ってもらえるよう活動をしていきたいと思います。



いち・に・さんし



新庄市
旧蚕糸試験場
原糸の杜

掃除しました × 民話



美しい木目が姿をあらわす。それぞれ異なる木目が出てくるのは、何か楽しさがあった。屋根瓦のつやつやした質感、釘の打ち方、廊下の天井の塗装の剥げ方などが改めて目に入ってくる。設立当時からこの建物に携わった全ての人がどんな思いでこの建物を作り、使い、受け継いできたのか。そんなことを自然と考えてしまった。

自らの手で掃除することによって、旧蚕糸試験場の特徴を肌で知り、愛着が湧いてきた。ただ見ているだけではわからない壁の凹凸や色、ドアや下駄箱の位置の面白さなど実際に近くによって触れてみなければわからないことだけだった。掃除を無心で行うことによってお互いの連帯感が生まれたようにも思う。掃除を始める前には目に入らなかった屋外の美しい景色がきれいになった窓から見えるようになった。屋外の景色や空気、光が屋内に積極的に取り入れられることで、よりよい空間づくりができるのではないかと感じた。

皆で掃除をした場所で、新庄に伝わる民話を聞いた・・・。独特の新庄弁によって織り成される物語の世界は、私たちを惹きつけた。広々とした木の空間に響く独特的のリズムとは言えない臨場感を生みだした。どこか懐かしくて温かい、そんな感情があふれだす。